



## 主に推薦される“手紙”

IIコリト 10・12-18 (要旨)

説教者 原田憲夫

本日の「鍵の語キワード」は10章18節の「推薦される」(受身形)です。今の時代に遣わされた「キリストの手紙」である私たちの務めを覚えながら、みことばを心に刻みましょう。

今日の「推薦」という語は、3章1節以下で学んだことの「復習」になりますが・・・

パウロは、批判的な人たちにこの私を通して信仰に導かれたあなた方が「私たちの推薦状」であり、すでにみなに読まれていると語りました。

### 【1】 限度を超えて誇らない

パウロは、彼を批判していた人たちに心向けます。無視せずしっかり向き合います(10・1-12・13)。

#### [主な批判内容]

- ・手紙では威勢がいいが、会えば臆病者である(10・1,9-11) ・口べたである(10・10,11・6)
- ・本当に使徒なのか(11・5, 7ff.,12・11)等々。

パウロはそうした批判に対して、「私たちは、限度を超えて誇りません。・・・」(13,15)と応えます。

パウロがここで注意を促しているのは、「自分自身を誇る」ことがもたらす災いです。それは宣教の働きを妨げ、キリストのからだを破壊することになると。パウロがいつも心に留めていたのは、「キリストのからだを建て上げる」ことでした。ですから、だれかと比較して誇ったり、他人の働きを横取りして「称賛」を得ることなど全く考えもしなかったのです。

### 【2】 霊の戦いに必要な武器

(1) 分派的なふるまい、教会の一致をかき乱すような人々に対して：

パウロは「肉に従って戦ってはいない」(3)と語ります。宣教の働きに必要な武器は「肉の力ではなく、神のために要塞を打ち倒す力である」からです(4)。

▶では今、私たちが手にしているのは「霊的な武器」なのか・・・自問してみてください。

批判や言いがかりに対抗しようとして、聖霊の助けを忘れ、いつのまにか肉に従って行動していないかと。→日々の「静思の時-主の前に静まる時」の中で培われる力。

(2) 「惑わす者たち」に対して：

また、キリスト教会を名乗りながら全く別の教えを説く人々の集団があり、最近では既成の教会の土地建物を狙っていると言われます。ある種の詐欺集団です。

▶「しかし、驚くには及びません。サタンでさえ光の御使いに変装します。・・・彼らの最後は、その行いにふさわしいものとなるでしょう。」(IIコリト 11・14-15)

▷今、キリストのからだ-教会には、「霊的な知恵と理解力(霊的洞察力)が求められています。宣教の働きは、極めて霊的な働きです。「神の大能の力-神の武具」(エペソ6・10-20)によらなければ対抗できないことをしっかり心に刻んでください。

### 【2】 「主に推薦される人こそ…」

パウロは積極的に語ります。

「誇る者は、主を誇れ。」(17) →エペソ9・23-24 「自分自身を推薦する人ではなく、主に推薦される人こそ本物です」(18)、と。

この「(主に) 推薦される」という「受身形」が大事なのです。

▷新聖歌 429 番 (J.M.Gray 作詞)

「罪人に過ぎず、然れど我・・・」

(祈り) 主キリストよ。私たちは生ける神の御霊によって、私たちの心の板に書き記された「あなたの手紙」です(3・3)。あなたを喜び、あなたが推薦される「あなたの手紙」です！

あなたのみからだ-教会を建て上げるために取るに足りない私たち-私をこの時代に遣わし、ご聖霊によって用いて下さい！アーメン

(「キリストの手紙」 シーズ 8)

